

年 頭 の ご あ い さ つ

社団法人 北海道林産技術普及協会
会 長 竹 内 久 彌



明けましておめでとうございます。

本年が来たるべき21世紀の序章に相応しい力強い一年となるよう、会員の皆様と共々にお祈り致したいと存じます。

さて、昨年以來、私どもを取り巻く経済社会情勢は、まことに深刻な状況を迎えております。来たるべき21世紀に向けての「産みの苦しみ」とでも言うべき状況なのではないでしょうか。経済の沈滞に加えて、バブル経済の後遺症とでもいうべき、さまざまな事件や社会現象が現れております。政治や経済や社会全般に対する不信感が渦巻いております。この状況を乗り切るために、政府は大幅な規制緩和や行政改革を進めようとしていますが、産業の世界におきましても、今こそ勇気ある発想の転換が求められるわけであります。

私どもの木材産業も、平成9年の初頭は消費税値上げの駆け込み需要に支えられて、どうやら堅調に推移しましたが、春以降は政府発表の「ゆるやかな回復」とは裏腹に危ない綱渡り状況が続き、年末には正に深刻な事態となって来ております。ただひとつの好材料は円安による輸入製材が減少する傾向が見られることです。これをきっかけに、国産材の再評価が始まり、技術がそれを支えて、新しい国産材時代が始まることを期待してやみません。

このように、経済面では非常に厳しい状況にあるわけですが、一方で、地球環境や自然の保全、人々の健康・安全に関する関心は非常に高まりを見せております。昨年、「緑の募金」は初めて20億円に達したそうです。12月には地球温暖化防止世界会議が京都でおこなわれましたが、森林の果たす大きな役割と、木材が果たす二酸化炭素蓄積効果の大きな役割が国民全体の知識となりました。人々の健康を守る住宅や、高齢化時代の住宅に木材が大きな役割を担うということも、人々の常識となりつつあります。「来たるべき時代」に森林と木材がどんなに重要な役割を果たすかを人々はよく認識するようになりました。

12月に東京で「東京モーターショー」が開かれましたが、自動車各社は21世紀の車として、地球環境に優しい電気自動車やハイブリッドカーを競って発表しておりました。介護用の車やハンディキャップ用の車も発表しておりました。このように「来たるべき時代」の要請を積極的にビジネスチャンスに生かそうという流れが生まれているわけであります。「適切な森林の維持」とそれを支える「適切な木材の利用」はまさしく「来たるべき時代」の要請であります。

私どもの北海道林産技術普及協会は、事業者、公務員、教育者、技術者、研究者、一般市民と非常に多様な会員によつて構成されていますが、皆一様に、森林と木材の役割を認め合う人々の集まりであります。今や、21世紀を3年後に控えて、この重要な木材の役割を現実のものとするために、私どものそれぞれの英知を結集して、それぞれの置かれた立場で最大限の工夫と努力を行って行きたいものであります。